

## ——ウクライナ状況に関する「祈りの課題」——

＜京都教区議長 使信＞ “いま、無力ではない祈りのお願い”

京都教区総会議長 今井牧夫

私たちが生きる世界を創られた神の栄光を讃え、以下を皆様をお願いします。

2022年2月24日、ウクライナに対するロシアの軍事侵攻により双方の戦争が開始され、軍人・民間人を問わず多くの死傷者を生み、各地の生活が破壊され、多くの避難民が各国に流入しています。いかなる背景があろうとも決して正当化されえない、この残虐非道な戦争に、ロシア国内を含めて全世界の人々が抗議し、平和への祈りを献げています。その中で私たち京都教区も「平和をつくり出す人たち」(マタイ福音書5章9節)となるよう神に導かれ、共に祈るため、下に「祈りの課題」を一例として提示します。皆様の礼拝や祈りの場で、共にお祈り下さるようお願い申し上げます。

(以下は、教区三役が作成した祈りの例です。実際は皆様それぞれに自由にお祈り下さい。また、本プリントのメール添付送信を希望の場合は、今井(京北教会)に直接ご連絡下さい)

**ロシア・ウクライナ双方、そして国際社会と日本社会のために祈ります。**

- ・ 双方の国、指導者が、共に戦争を終結させる判断をすることができますように。
- ・ 双方が民間・軍人を問わず、全ての人の命と生活を守って戦闘中止しますように。
- ・ 双方の軍が戦闘も威嚇もせず、侵攻せず、即時撤収することができますように。
- ・ ウクライナ国内外の大量の避難民を支える、国際的人道援助ができますように。
- ・ 故郷を離れざるを得なかった人々が、速やかに故郷に帰ることができますように。
- ・ 世界各地に住むロシア・ウクライナ双方の人への迫害や蔑視がされないように。
- ・ 世界の人々が、国や地域などの立場の違いを超えて平和のため働けますように。
- ・ 侵略の恐怖から、逆に軍事力に頼ってしまう錯覚が世界や日本に起きないように。
- ・ 核兵器使用の可能性や威嚇が、国際社会で決して許されることがないように。
- ・ (……その他、皆様ご自身が、無数の「祈りの課題」を創られると思います)

(解説) この「祈りの課題」は教区三役の判断で、緊急の「教区議長の使信」として出しました。その理由は、切迫した現地報道が続くなか、専門的な議論や学びを深める以前に、教区内でまず皆様と祈りたい、という思いです。そのため祈りの文面は、歴史や国際政治の本質には触れていません。しかし、今回は、緊急にやむにやまれぬ思いを「祈り」として表現していますことに、ご理解とご容赦をお願いいたします。

いま、私たちが恐れるべきことの一つは、「祈りとは無力ではないか」ということです。祈りは無力ではない、そう信じて、教区の皆様に平和への祈りを呼びかけます。